

高崎観光協会 会報

縁起のいいまち 高崎

夏号
Summer
VOL.135

2016

「縁起のいいまち高崎」高崎観光協会会報 夏号(第135号) 平成28年7月1日発行



高崎発のナシヨナルブランド

ガトーフエスタハラダの

「グーテ・デ・ロワ」を召し上がれ



高崎発のナショナルブランド ガトーフェスタ ハラダの 「ゲーテ・デ・ロワ」を召し上がれ



埼玉県との県境に位置する高崎市新町。2000年1月、この小さな町から後に全国的な人気商品となるガトースク『ゲーテ・デ・ロワ』が誕生した。それは、1901年(明治34)から家族経営で4代続く小さな菓子店が、年商170億円を売上げる洋菓子メーカー「ガトーフェスタハラダ」として華麗なる転身を遂げるサクセスストーリーの始まり。物語を牽引したひとり、ガトーフェスタハラダの原田節子専務にドラマチックな道のりをうかがった。

■株式会社 原田・ガトーフェスタ ハラダ
高崎市新町 1207 TEL.0120-520-082

専務取締役 原田 節子さん

「任せられるものは社員に任せて、多くの人を巻き込みながら前進していきたい」と、今でも店舗を巡回し商品の陳列の仕方や接客の心構えなど、ガトーフェスタハラダの最前線に立つ店舗スタッフの指導に力を注いでいる。



■交通案内

JR 高崎駅より2つ目の駅(所要時間約10分) JR 新町駅より車で3分、徒歩15分
関越自動車道「藤岡JCT」を経由し上信越道「藤岡IC」から約12分。または、関越自動車道「上里スマートIC」から約10分

ガトーフェスタハラダ本社工場
新本館 シャトー・デュ・ボヌール
上里スマートIC



まちの和菓子店からパン屋へ

「中山道の宿場を和菓子作りの技術を伝えて歩いたという初代丑太郎が、1901年（明治34）に故郷の新町で御菓子司・松雪堂を創業しました。戦後になり、材料を闇市に頼らなければならなかったことから、2代目の卓三は菓子作りを一時断念。その後、合法的な配給パンの製造に活路を見出し、見よう見まねでコッペパンと食パンを作るようになりました」と、ガトーフェスタハラダのルーツについて話す原田節子専務。

「1950年代には、国内初のパン学校『日本パン技術指導所』で学んだ私の父、現会長の俊一がアメリカ風のスイートロールやバターロールなどを作りました。工賃が他より若干高いにもかかわらず、店はお客様の行列ができるほど繁盛しました」。

3世代にわたり共通するのは、時代に柔軟に対応するチャレンジ精神に他ならない。

企業再生の切り札となったラスク

「バブル経済崩壊のあおりとライフスタイルの多様化を受け、

当社は1995年から減益が続きました。いままでのビジネスモデルが通用せず、企業再生の切り札となる新商品の開発が急務でした」。

そんな、1996年の晩秋のころ、「ラスクがおいしいからお歳暮に使用したい。折詰にできないか」という得意先からの注文があった。ラスクは残ったパンを活用したもので、それまで20年近く手頃なおやつとして地元の人たちに愛されてきた。そのラスクがもしかしら切り札になる。確信めいたものに導かれ、贈答品の定番となるような上質なラスクをめざして試行錯誤が始まった。「上質なバター、焼き加減など、理想的なバランスを見つけるのが一苦勞でしたが、結局自分たちの好みで味を決めました」と夢中だった当時を振り返る。

感動のコミュニケーション

新しいラスクの商品コンセプトは、「感動」を「共有したくなる」ギフト。加えて、広がる「感動のコミュニケーション」という普遍的なコンセプトを設定した。

「ヒット商品の条件は、確かな品質が50%。残りの50%は、ネーミングやデザイン、ストーリー性など、

人の感性に語りかけるイメージ作りだと思います」。

『ゲーテ・デ・ロワ（王様のおやつ）』という名称に、フランス国旗のトリコロールカラーをアクセントにしたパッケージで、ナショナルブランドにふさわしいイメージを構築。2000年1月1日の発売と同時に、地元の新間にチラシ10万部を折り込み、徐々に配布地域と部数を増やし、最終的には、遠くはさいたま市まで40万部を配布。県が主催する東京などでの物産展で販売し、併せて通信販売も行った。半年後のお中元期には手応えを感じ、その年の暮れには地元で評判となり、通信販売での注文が爆発的に増え始めた。

拡大するニーズ。増産体制を構築

受注が生産能力を上回り、既存の生産設備の老朽化と増産に対応するため、新工場を設立。2002年に新工場が稼働したが、すぐに生産が追いつかなくなり、2004年に店舗兼工場、2008年には事務所兼新工場を敷地内に建設し、総額40億円弱を投じた。

大胆な設備投資に、原田専務は「不安というより、生産が間に合わなくてお客様にお断りするほうがよ

ほど辛かったです。口コミで広がったので、一過性のものではないという自信がありました」と胸を張る。

2013年には既存工場の2.5倍の敷地面積をもつ工場兼物流拠点の『シャトー・ドゥ・クレアシオン（創造の館）』を稼働させるに至った。

首都圏のデパ地下に進出

出店に関しては、2005年8月にオープンした東武船橋店を足がかりに首都圏への進出を図っていたこと、催事出店した時に売れ行きが好調だったことからある程度の自信をもって臨んだが、有名店が軒を連ねるデパ地下の競争はさすがに厳しく、季節性の商品開発が求められた。なんとか2006年のホワイトデーに間に合うように、ホワイトチョコレットをコーティングした『ゲーテ・デ・ロワ ホワイトチョコレット』を発売すると大人気に。『ゲーテ・デ・ロワ』に並ぶ人気商品となった。その後、関西方面への出店も果たし、2016年4月の宮城県仙台市への出店で、販売拠点は23カ所となった。『ゲーテ・デ・ロワ』は各地で話題をさらい、消費者の心をつかんだ。



工場見学限定で味わえる「ゲーデ・デ・ロワ プリュレ」



本社工場「シャトー・デュ・エスポワール」



CHATEAU DU BONHEUR



工場見学案内 月～金：午前10時～午後5時
(10名以上の場合は要予約。ガイドの説明付き)
工場見学予約・問い合わせ：TEL.0120-060-137

人気商品が生まれる お菓子工場。見学へGO!

上質な贈答品のブランドに
ふさわしい外観

埼玉県との県境を流れる神流川の畔。国道17号線に面したギリシャ建築をデザインした建物がひととき目を引く。100メートル有るの間口、ギリシャ建築に取り入れられた70本の列柱が壮麗で印象的。ガトーラスク『ゲーテ・デ・ロワ』をはじめとする洋菓子メーカー「ガトーフェスタハラダ」の本社兼工場と直売店だ。お菓子の殿堂にふさわしい佇まいから、一流ブランドとして普遍的な価値を発信し続ける決意とプライドが伝わってくる。

2004年春に工場直売店「新本館シャトー・デュ・ボヌール」(幸福の館)、2008年に本社工場「シャトー・デュ・エスポワール(希望の館)」が建設された。観光バスが連日訪れるなど、一大観光スポットとなっている。

気軽に楽しめる工場見学

工場見学をしたい人は、正面に向かって左側の棟へ。見学通路は「シャトー・デュ・エスポワール」の3階と4階にあり、工場見学は9名以下なら、予約不要で1階のフロントで随時受け付けている。個人の見学者にはイヤホンガイドの貸し出しもある。ガラス越しに製造ラインを見学しながら、ビデオやパネルの画像解説を聞くと、おいしいガトーラスクを消費者に届けるためのこだわりや工夫を知ることができる。工場見学ならではの特典もある。

ラスクに特化した製造ライン
オリジナルの先端ロボットを導入

ガトーフェスタハラダは当初から安定供給をめざして、製造ラインを構築してきた。ガトーラスクの素になるフランスパンを作るところから工程が始まる。

①原料の小麦粉はガトーラスクのた



形状や大きさを瞬時に見分け、合格したものを2枚重ねにして
拾い上げる最新のアームロボット



きらりと光るこだわりの福利厚生施設

美味しいメニューを低価格で提供する社員食堂、
マッサージチェアで仮眠がとれるリラクゼーション
ルーム、卓球やビリヤード、ダーツを楽しみながら
多世代交流ができるレクリエーションルームなど、
家族の絆を大切にしてきた同社ならではの、福利厚
生施設の充実ぶりがすごい。「社員には会社を好きに
なってほしいです」と原田専務。(見学不可)

GATEAU FESTA HARADA



ガトーラスク専用のフランスパンを
直営店限定で販売(平日のみ)▶

めに配合したオリジナルブレンド。速度とタイミングを計り、なめらかにミキシングすることで、きめ細かなパン生地ができて上がる。

② 練り上げた生地を寝かせた後、専用機でフランスパン1本分に分割される。焼き上がりの質に大きく影響する発酵は、温度・湿度・時間を自動でコントロールして穏やかに進め、最適なタイミングで、オーブンに送られる。

③ オーブンは長さ30メートルの巨大釜。トンネルの中を1分間に1メートルの速度でラインが流れ、約30分で焼き上がる。均質な焼き上がりとなるようゾーンに分けて

温度管理されている。

④ 美しい焼き色がついたパンを、ラスク50枚分にスライス。良質のバターを溶かした上澄みのおいしいところをたっぷり吸わせて砂糖をかけ、時間・温度を厳密に管理したオーブンで丁寧焼き上げる。1時間におよそ1万2千枚ものラスクがスピーディーに作られる。

⑤ 選別は、世界有数の包装機器メーカー、ドイツ・シュールト社製の「TLMロボット」が行う。このロボットに設置されているスキャナーで、ラスクの形状・大きさ・焼き色を瞬時に読み取り、合格基準を満たしたものを、アームで拾い上げて2枚を重ねる。ラッピングマシンで包装し、最後は人の目で確認しながら梱包される。

こうした製造工程で出るパンの切れ端や、こぼれた砂糖の粒などは、家畜の飼料やペットフードの材料等に利用され、98%の食品リサイクル率を実現している。

工場見学の後は、隣接の直営店「新本館シャトー・デュ・ボヌール」でのショッピングをお楽しみに。

市民のパワーを集結！

出掛けよう！参加しよう！楽しもう！



第42回高崎まつり

8月6日(土)・7日(日)

●高崎駅西口からもてなし広場周辺

第14回高崎山車まつり

8月6日(土)・7日(日)

●高崎中心市街地からもてなし広場周辺

大花火大会

8月6日(土) 午後7時40分～8時30分

●烏川和田橋上流河川敷

●日本一きれいな祭りを
高崎まつりでは、スタッフをはじめ学生たちを中心としたボランティアが清掃スタッフとして活躍。祭りの期間中と翌朝に会場を巡回し、熱心な清掃活動を展開する。
まつり期間中は、会場内各所にゴミステーションを設置し、ゴミの回収・分別を徹底。"日本一きれいな祭り"の実現を目指しているので、ぜひご協力を！

●今年の花火は大幅に観覧席が拡大！
北関東最大級と言われる大花火大会は、五十分間に一万五千発の花火がテンポ良く打ち上げられ、その様は圧巻。毎年新しいデザインの花火も楽しみなどころ。心沸き立たせ、心の憂きをも吹き飛ばす、夜空のエンターテイメント・大花火大会は絶対見逃せない。
今年も、従来の観覧席に加えて、和田橋運動場のサッカーグラウンドと高崎カントリー跡地を観覧席として無料開放することになった。また、毎年抽選になる人気の有料観覧席も増設し、昨年の二倍に拡大する見込み。ドローンと上がる大花火、あなたは今年、誰とどこで見上げる!?

●高崎市民の総合力を見せつけよう！
高崎まつりは山車、神輿、伝統芸能、阿波踊りに和太鼓、木遣り、盆踊りなど市民がそれぞれの持ち味を生かして参加し盛り上げる高崎市民自慢の祭りだ。見るもよし、食べるもよし、踊るもよしの二日間、市民の総合力が爆発する！
毎年七十万人超の来場者が訪れる高崎まつり。上野駅で巨大だるま神輿を展示し、その日の法被を着たスタッフがPRキャンペーンを行ない、観光客の増加にひと役買っている。

EVENT

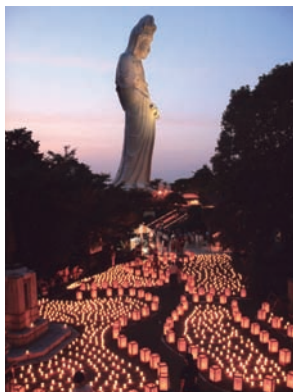
花火の観覧場所 大幅拡大！



★高崎まつり公式 LINE@に登録して、リアルタイムに祭りの情報をゲットしよう！登録してくれた方の中から抽選で大花火大会の有料観覧席をペア10組20名様にプレゼント



- HPやFacebook、Twitterも随時更新中。“高崎まつり”で検索してね。
- お問い合わせ：高崎まつり実行委員会事務局（高崎市商工観光部観光課内）TEL.027-321-1257



第20回高崎観音山万灯会

8月27日(土) 17時～21時30分

●観音山一帯で開催
(小雨決行、雨天の場合は中止)

白衣大観音建立80周年
万灯会は20周年の節目

～厳かな灯火の中を一步、また一步と歩を進め、幽玄の世界へ

※熊本地震被災支援の献灯場所を設けます。祈りと願いを込めた灯明を奉納いただいたその浄財を義援金いたします。皆様のご協力をお願い申し上げます。

※駐車場が少ないので、高崎駅からの臨時ぐるりんバスの利用を推奨しています。また、徒歩にて観音通りをゆっくり歩き、かつてのように石段下から五百段の参道石段を登って清水寺へお詣りし、平和塔広場から参道商店街を通り抜け、白衣観音まで参拝するコースもおすすすめです。

例年通り、スタンプラリーや子供ようちん行列、緑日広場や各種イベントが催される他、今年には観音様建立と万灯会の節目にちなんだ特別企画も予定されている。家族や友人、知人と連れだってゆつくりと晩夏の観音山散策を堪能してみては。

故井上保三郎翁が高崎の発展を祈念して観音山に白衣大観音を建立し、今年で八十年の節目を迎える。夏の終わりを締めくくると幽玄なロウソク祭りとして定着した万灯会も、記念すべき第二十回目となる。聖石橋西詰から白衣大観音に至るまでの広範囲を、一万数千個の灯明と千五百基の灯籠が照らし出す万灯会は、神仏に灯りをお供えして、先祖供養、心願成就を祈念する習わし。

灯火の導く世界へ一步、また一步と歩を進めればそこには厳かな世界が広がっている。

●お問い合わせ：高崎観音山万灯会実行委員会（慈眼院内）TEL.027-322-2269

EVENT

ハンド・シャドウ・ショー

生命を吹き込まれた影たちが繰り広げる、究極の「手影絵」パフォーマンス！

9月11日(日)

1回目 13時30分開演

2回目 16時30分開演

●高崎シティギャラリー

●出演 劇団かかし座
●入場料 全席指定 2,000円
*公演時4歳以上有料、4歳未満でも席が必要な場合は有料

●お問い合わせ：高崎シティギャラリー TEL.027-328-5050



平成28年度たかさきこどもまつり

9月10日(土)～9月19日(月・祝)

メルヘンと遊びの世界展20

「見る・つくる・あそぶ」

絵本原画の展示、積み木・影遊び、忍者修行、映画上映 他

9月10日(土)～19日(月・祝)
10時～18時

●高崎シティギャラリー
第3～第6展示室、
シネマテークたかさき ほか

主催：高崎市・NPO法人高崎こども劇場・NPO法人時をつむぐ会
NPO法人たかさきコミュニティシネマ

●お問い合わせ：高崎市文化課 TEL.027-321-1203



たかさきキッズパーク

9月10日(土)～19日(月・祝)

10時～16時50分

●高崎市総合保健センター

2階 第1会議室等

ボーネンド社がプロ

デュースするコンセ

ト室内あそび場

●利用方法 1日7回 50分間で入替え
●対象者 生後6ヶ月から12歳までの子ども
*入場条件 子ども3名につき保護者が必ず1名入場
*入場定員あり(定員に達した場合、入場をお待ちいただきます)
*週末など混雑時には整理券を配布する場合があります

●お問い合わせ：高崎市商工観光部観光課 TEL.027-321-1257



「おかあさんといっしょ」 ガラピコぷ～がやってきた!!

10月2日(日)

1回目 11時15分開演

2回目 14時開演

●群馬音楽センター

●出演 チョロミー、ムームー、ガラピコ、坂田おさむ、つのだりょうこ

●入場料 全席指定 1,800円

*当日1歳以上は有料、1歳未満でも席が必要な場合は有料

●お問い合わせ：群馬音楽センター TEL.027-322-4527



第21回緑日広場

9月10日(土) 14時～20時

9月11日(日) 10時～15時

●高崎シティギャラリー
ハローフォーラム

●入場無料(※ただし、会場内飲食物の購入、遊びの参加には、場内で販売するチケットが必要)

主催：緑日広場実行委員会

●お問い合わせ：高崎市文化課 TEL.027-321-1203



EVENT

BOØWYが育ったまち

若者相手に熱く音楽を語る大人たちがいた



◀「新星堂」やレコード店「名曲堂」があったストリート

●若者文化を育てた高崎の土壌

1960年代から70年代、ロックは若者の心を動かし、時代をも動かし、たエネルギーシユなムーブメントだった。

高崎のまちなかには県内一円から若者を集める楽器店、レコード店、ブランドショップがたくさんあった。店の人たちは高校生や学生を相手に熱く音楽を語り、多くのアマチュアミュージシャンを育てた。どの店にも音楽に詳しいおもしろい店員が必ずいて、初めてギターを持つような高校生が、楽器選びやサウンドづくりのアドバイスを受けたり、音楽談義に花を咲かせたり、数少ない情報交換の場となっていた。こうしたショップを見て歩くのが、高崎のまちの楽しみ方であった。

伝説のロックバンドBOØWY

(氷室京介、布袋寅泰、松井常松、高橋まこと)とBUCK-TICK(櫻井敦司、今井寿、星野英彦、樋口豊、ヤガミトール)は、こうした高崎のまちから生まれた。

●BOØWY伝説が始まった地

BOØWYは1988年の解散

伝説のロックバンドがここから始まった

後も根強い人気を持つ。氷室、布袋、松井の3人が高崎出身で、高崎はBOØWYファンの聖地である。彼らがロックを聴き、ギターを手にし、ステージで激突し、プロをめざして東京へ向かうまでの足跡が、このまちに刻まれている。

氷室と松井は高崎市内の倉賀野小学校の同級生で、17歳で夭折した「山田かまち」も同じ小学校の同級生だった。かまちが残した詩や絵画は「高崎市山田かまち美術館」に収蔵、展示されており、多くの若者に感動を与えている。彼らがロックに目覚めた70年代を象徴する作品も多い。

クラブジャズシーンで活躍する高崎出身のDJ小林径は、布袋が新島学園でバンドを組んだ先輩で、布袋の才能を見いだした。

●このまちから夢がスタートした

残念なことに、設備の整った貸しスタジオやライブハウスが当時の高崎にはほとんどなく、ライブ活動が高崎では頻繁に行えなかった。高崎で数少ない演奏の場は、高崎地域医療センターの4階にあるホールや市内の楽器店などで、高校生、アマチュアバンドのコ

ンサートが行われていた。この頃の高崎では、ロックは公的な施設から冷遇されていたが、高崎地域医療センターだけは、うるさいことを言わずに、ホールを提供してくれた。ロックやフォークのコンサートを、演劇、映画の自主上映会などが行われ、高崎のサブカルチャーの殿堂と言えた。

70年代半ばから高崎のアマチュアロックシーンは熱い潮流があり、氷室と松井のいたデスペナルティと布袋のブルーフィルムは抜きん出ているようになった。二つのバンドは当時のアマチュアバンドの登竜門となるコンテスト「イーストウエスト」の79年大会で決勝を争った。

BOØWYがメジャーデビューすると市内のレコード店は、特別にコーナーを作って客に勧め、メンバーも時折、顔を見せていた。BOØWYにゆかりのあるショップは、まちなかから消えてしまい、医療センターで当時の高校生がロックを演奏した記憶も遠くなったが、高崎には新たな音楽ムーブメントが生まれている。2016年春に高崎を訪れた布袋は語った。「このまちから夢がスタートした」と。

